

AYASEGAWA

学習の流れ

小学校3年生から6年生までを対象とした環境学習読本「綾瀬川の通信簿をつけよう」は、綾瀬川の今を学び、実際に川を観察したり、調べたりすることによって、川と暮らしとの関係を子供たちに考えてもらうことを目的としています。総合学習などに利用して、綾瀬川に親しみを、そして綾瀬川を大切にしようという気持ちが芽生えるように指導していただくことを願っています。

事前学習

体験学習の前に、現在の綾瀬川の様子について学習します。川というものの本来の姿を伝え、今の綾瀬川とどのように違うか。そして、綾瀬川の変化が自分たちの暮らしと深く関係していることを伝えることが狙いです。

- P3 綾瀬川って、どんな川?
- P4~5 綾瀬川の今と昔
- P6~7 どうして綾瀬川は汚れたんだろう?
- P8~9 綾瀬川と生き物

体験学習

実際に綾瀬川に行って、川の様子や生き物の観察、水質調査などを行います。バックテストやケメットテスト、水のにごり具合の計り方といった調査の方法や、観察の仕方の他、体験学習しやすい場所のリストなどを記しています。

- P10~19 綾瀬川を体験しよう
- P20~21 体験学習の安全とマナー
- P22~23 綾瀬川を観察しよう
- P24~25 綾瀬川の水を感じよう
- P26~27 水質を調べよう
- P28~29 生き物を観察しよう

まとめ

体験学習の結果をまとめ、それを元に綾瀬川をどのような川にしたいか、川本来の姿に戻すにはどうしたらいいかを考えます。行政や流域住民の川をきれいにする取組みを学びながら、自分たちにできることを学習することが狙いです。

- P30~31 綾瀬川をきれいにしたい
- P32~33 綾瀬川をきれいにする施設
- P34~35 見学できる施設
- P36~37 綾瀬川の自然を取り戻す
- P38~39 自分たちにできることは?

綾瀬川清流ルネッサンス

綾瀬川って、どんな川?



学習のねらい

- 綾瀬川流域の全体像を理解する。
- 自分たちの暮している地域が流域のどこに位置しているかを理解する。

綾瀬川は、昔の荒川の支流といわれます。桶川市を起点として埼玉県を南流し、草加市で古綾瀬川、埼玉県と東京都の境で伝右川と毛長川が合流します。その他小さな川や堀をあわせながら流れ、東京都で中川に合流します。流域はすでに都市化した地域が多く、綾瀬川は首都圏のベッドタウンを貫流する代表的な河川の一つです。

